

平成25年度 第8回端野まちづくり協議会開催結果について

日 時	平成26年2月6日(木)午後6時30分～午後7時10分
会 場	北見市端野総合支所1階 会議室1・2
出席者	北川正美会長、岡村廉明副会長、今村幸雄委員、鹿野内みゆき委員、河端文雄委員、笹木健生委員、柴田登与志委員、保里隆道委員、松崎常雄委員、水口 馨委員、水野三智子委員、村本慧乃委員、森谷幸弘委員 計13名
北見市	藤澤自治区長、品田教育事務所長
事務局	原田総合支所長、上銘総務課長、田中地域振興担当係長、井筒主事
傍聴者	1名

【意見交換・主な内容】

1. はじめに

原田総合支所長 : ただいまから、第8回端野まちづくり協議会を開催いたします。

それでは、最初に北川会長よりご挨拶をいただきます。

北川会長 : 皆さん、こんばんは。

いよいよ、ソチ冬季オリンピックが明日から開会となり、日本選手団103人中過半数が北海道出身で、北見からはカーリング4人とスピードスケート1人の計5人が出場することから、皆さんそれぞれ期待をして、楽しく見ることがきると思います。

各地で、冬を楽しむイベントが催されております。

また早いもので、もうすぐ玉ねぎの播種が始まります。

今日は「まちづくりパワー支援補助金について」を議題としていますので、よろしく願いいたします。

原田総合支所長 : 続いて、藤澤自治区長から行政報告をいたします。

藤澤自治区長 : 自治区関連の行政報告

原田総合支所長 : これからの会議の進行につきましては会長にお願いしたいと存じますので、よろしく願いいたします。

北川会長 : それでは会議に入ります前に、会議の成立について事務局から報告がございます。事務局、報告願います。

事務局 : 本日の出席委員数は正副会長を含め、15名中13名でございます。北見市自治区設置条例第7条第3項の規定に基づき半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。
なお、日置委員、渡辺委員につきましては所用があり欠席する旨の報告がありました。

北川会長 : 先ほど自治区長から行政報告が行われましたが、委員の皆さんからご質問などございませんか。

委員 : ありません。

北川会長 : それでは、行政報告については以上で終わります。

2. 議題

北川会長 : それでは、議題1に入らせていただきます。
平成26年度端野まちづくりパワー支援補助金について、事務局から説明をお願いします。

事務局 : 概要説明(資料1・2・3)

北川会長 : ただいま説明をいただきましたことについて、ご質問、ご意見はございませんか。

委員 : ありません。

北川会長 : それでは、平成26年度端野まちづくりパワー支援補助金については以上で終わります。

2. 報告

北川会長 : 続きまして「端野の自治区年表」について総務課長より報告をお願いします。

上銘総務課長 : 報告(資料4)

北川会長 : ただいま報告をいただきましたことについて、ご質問、ご意見はございませんか。

笹木委員 : 12月19日に野々下聡さんに大日本山林会会長賞受賞とありますが、これはどのような賞なのですか。

原田総合支所長 : 大日本山林会という組織がありまして、山林事業に功績のあった人に対し表彰するという表彰規定があります。
なお、この団体は歴史が古く、宮様を総裁と仰ぐ由緒ある団体ということです。

北川会長 : その受賞の内容は、野々下さんは「たんのカタクリと森の会」の会長であることや、鹿駆除などの環境面での功労による受賞ですか。

原田総合支所長 : はい、植樹ばかりではなく、山林の環境整備などを含めたことが選考理由です。

藤澤自治区長 : この受賞については、北見市では初めての受賞となります。

村本委員 : いつも議案を事前に送ってもらい会議の前に目を通して来るのですが、今回差替えがあるということで確認しましたが、何箇所か増えているようでした。
もう一度最初から見て増えた箇所を探すよりも、どの箇所が増えたのか、また何が変更になったのかを口頭で言ってくれませんか。

上銘総務課長 : 増えた箇所ですが、1月15日の「第24回防犯少年少女紙飛行機大会」、3月26日の「しらかば大学卒業式」の2カ所です。
また、6月22日のわくわく体験実習、10月12日のわくわく体験実習、11月30日のわくわく体験実習、12月13日の地産地消振興事業の文言の整理をいたしました。
なお、若干の誤字脱字も修正しています。

北川会長 : 他に質疑はございませんか。
それでは、「端野の自治区年表」については、以上で終わります。

3. その他

北川会長 : 本日の議題は、全て終了いたしました。
次にその他として、事務局からありますか。

上銘総務課長 : 「住民の方への情報提供」について説明

北川会長 : ただいま、「住民の方への情報提供」について説明をいた

だきましたことについて、ご質問、ご意見はございませんか。

水口委員 : 今言われたのは、「広報きたみ」の中に入っている端野自治区版のことを言っているのですか。

上銘総務課長 : その部分も含めまして「こういうような情報の提供をされると分かりやすい」とか、「できれば、紙ばかりではなくインターネットでの情報提供をしたらどうか」とか、住民の皆様が求めている情報がどのようにしたら一番受け入れてもらうことができるかということの意見をいただきたいと思います。

行政は、「これが良いのではないか」と思ってやっているのですが、これが本当に住民の皆様の意見とマッチするのかがということが分からない部分がありますので、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

鹿野内委員 : 「広報きたみ」の中の端野自治区版は、以前と比べ紙面は少なくなったことで、端野自治区だけで行っていることに関し、なかなかふんだんには盛り込めなくなっていると思います。

大まかなことは本紙面で分かりますが、端野自治区で動いていることに関して、「周知はできるが結果の報告がない」というような紙面作りになっていますので、結果が報告できる機会を与えて欲しいと思います。

私たちが活動しています「社会教育推進会議」という組織があり、ここで自主的に企画している講座があるのですが、皆さんに周知するのは良いのですが結果や成果を報告する場面がありません。

また、この組織はボランティアの組織ですが、このような組織を皆さんに周知する場面もありません。

このままでは、社会教育に対し皆さんの理解が進まないのので、結果報告や成果の周知の場を作っていただき、これを通じて広く自治区の皆さんに周知して行くということを考えますと、広報の仕方に問題があるのかなと思います。

原田総合支所長 : 合併により「広報きたみ」となりましたが、それぞれ地域の情報も欲しいということで、端野自治区版を作りましたが、一方社会教育でも情報紙が出ていましたが、何年か後、これらを一本化し今の端野自治区版となっています。

やはり私たちも、広報が来て見るのは自治区版の方ですが、中の記事を見ると、お知らせ記事ばかりということもあり、今、上銘総務課長が説明したような話を総合支所内で協議しているということでご理解いただき、鹿野内委員の言われたようなご意見を沢山いただきたいと思います。

森谷委員 : 自治区版は端野だけなのですか。
また、予算があれば記事を増やすことができるのですか。

上銘総務課長 : 常呂、留辺蘂各自治区も作成しています。
端野自治区版は職員が作り、印刷し折って広報に折り込んでいます。
内容が増えれば、ページ数を増やすことは可能だと思います。

森谷委員 : 要するに、昔は自治区内の記事と社会教育部分の記事があったのに、予算等の都合で自治区版としてこれらが一緒になってしまったということですね。

上銘総務課長 : 自治区版プラス・アルファになるのか、別のものになるのかは今後の課題だと思いますが、これらを掲載することは可能です。

水口委員 : 広報内に、端野自治区の昔の出来事などを書いたものが作れないかと思っています。
端野自治区内に住んでいる、お年寄りや子どもなどの話を掲載してはどうですか。
取材は大変かもしれませんが、今、鹿野内委員が言っていたとおり、お知らせばかりではなく住民の思い出話とかを載せると、少しは関心を持って読んでもらえるのではないのでしょうか。

北川会長 : 予算もあることですから、全てとはならないと思いますが、少しでも改善できればと思いますし、より住民の皆さんへの情報提供ということで、関心を持っていただければと思います。

水口委員 : 合併して8年、住民の皆さんに合併をして良かったかどうか、何人かに話を聞くのも良いのではないのでしょうか。

基本的には、住民が主役だというような意識を持てるような紙面があれば面白いと思います。

岡村副会長 : 「広報きたみ」はコマーシャルを載せ、入ってくるコマーシャル料金を使っていると思います。

端野もコマーシャルを載せ、そういうお金を集めて足しにする方法もあるので、そういうことも考えながら紙面の充実を図れば良いと思います。

民間の情報誌を活用するような、柔軟な対応も必要ではないでしょうか。

またインターネットなど、お金を掛けないように利用することも考えていく必要があると思います。

森谷委員 : 昔のことを掲載するのも良いですし、端野自治区版に子どもたちが頑張っている状況を紹介するのも良いと思います。

河端委員 : 一生懸命読んでいる方は、隅から隅まで読んでいますが、広報を読む気にならないという方もいて、そういう方に目を向けてもらう方法としては、紙面の隙間をもっと作って欲しいと思います。

びっしり書いてあると、見出しだけ見て終わらしてしまうことが多く、箇条書き風に書かれていると隙間が多く目が行きます。

総合支所の担当の方は、限られた紙面の中で多くの情報を提供するため頑張っていることは十分に理解していますが、編集の中で白い部分を入れたほうが読んでもらう確率が高まるのではないのでしょうか。

北川会長 : 他に質疑はございませんか。

それでは「住民の方への情報提供」については、以上で終わります。

続いて、その他として委員の皆様から何かありませんか。

水口委員 : まちづくり協議会の組織は大事な組織ですし、きちんと繋がっていないかなら無いと思っています。

その中で本年6月に委員の改選となりますが、委員の改選について、まちづくり協議会を続けていくには4分の1ずつ絶えず変わっていくような体制にするべきだと思います。

これは、私の個人的意見です。

- 北川会長 : このことについては、それぞれ公募、識見、団体からという
ことで私たちが決めることではございません。
水口委員のご意見としてお聞きしたいと思います。
- 森谷委員 : まちづくりパワー支援事業ですが、基本的に去年と変わった
ところはないということですか。
- 田中地域振興担当係長 : 結論的には、変わったところはありません。
- 森谷委員 : 何件か問い合わせがあるということですが、何件くらいで
すか。
- 田中地域振興担当係長 : 実際、来年の部分で受けているのは2～3件です。
- 松崎委員 : 端野自治区は、まちづくり推進大会の場で事業報告をして
いますが、他の自治区でもやっているのですか。
- 田中地域振興担当係長 : 他の自治区は年度末の3月のまちづくり協議会の中で、実
績報告をしています。
- 松崎委員 : 推進大会での事業報告は良いと思っています。
- 北川会長 : 他にございませんか。
なければ、事務局から何かございませんか。
- 事務局 : 次回の協議会であります。3月上旬を目途に開催したい
と考えています。
事務局からは以上です。
- 北川会長 : 以上をもちまして、第8回端野まちづくり協議会を終了い
たします。最後に岡村副会長から挨拶をいただきます。
- 岡村副会長 : 今年初のまちづくり協議会、ご苦労様です。
この間「ごちそうさん」というテレビを見たのですが、食
べるということの素晴らしさ、大切さを教えてくれる番組だ
と思います。
この「食べる」ということは、「食う」ということと全く違
い、「食べる」ということの語源がどこにあるかということ、「賜
る」、つまり天から賜ったもの、授かったものが語源であると
聞きました。

私たちの町も沢山の食べ物を作って、日本全国にお届けしています。

そこで食べていただける方々の感謝を、そのまま作っている農家の方々へ届けることができたなら素晴らしいだろうなと思いました。

遠くにいる消費者の方々の笑顔を、直接農家の方が見られないことは非常に残念に思います。

風邪が流行っておりますが、次回また元気でお会いしましょう。

北川会長 : 以上で終了いたします。

午後 7 時 1 0 分 終了